

はじめに

アレルギー疾患は年々増加の一途を辿っている。特に食物アレルギーは、保育園における食育の観点からも重要な問題である。

一昨年、我々は、札幌市内の保育園での食物アレルギーの現状に関してのアンケート調査を行ない、特に園医や主治医との連絡体制について分析した。その結果は、診断書が介在するケースが殆どだった。すなわち、一定程度、統一された診断書が必要であると思われた。

札幌市では、保育園での除去食調理の負担を軽減するため、昨年度より補助金制度を導入した。これに伴い、統一した診断書を札幌市小児科医会と作成した。

更に、食物アレルギーの重症例について、一般的な食物アレルギーと区別するため、完全除去診断書を提案する。

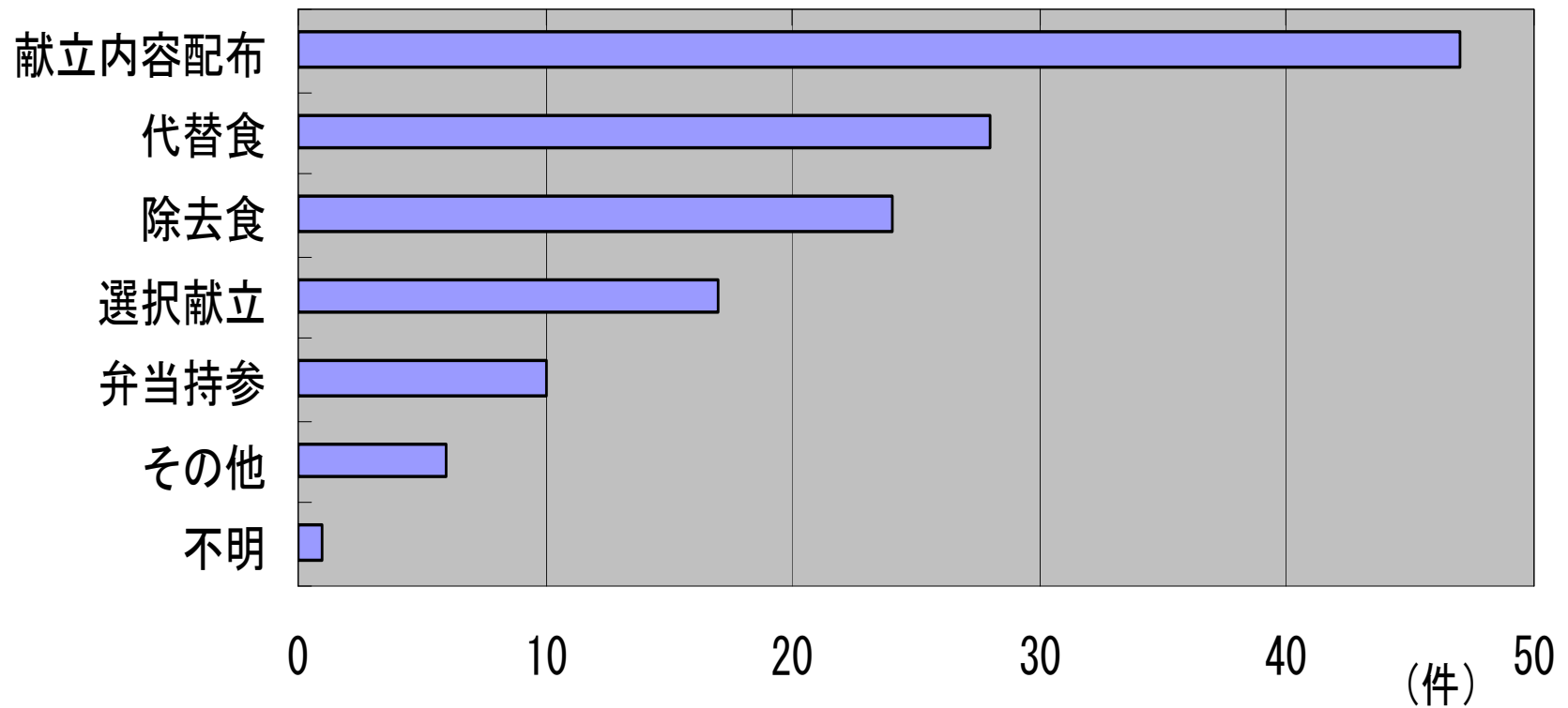
同時に、新川病院で行なっている制限食解除のための負荷試験と、判断の参考にしているヒスタミン遊離試験の問題点について、報告する。

アンケート調査結果

市内の認可保育園186ヶ所にアンケート用紙を送付

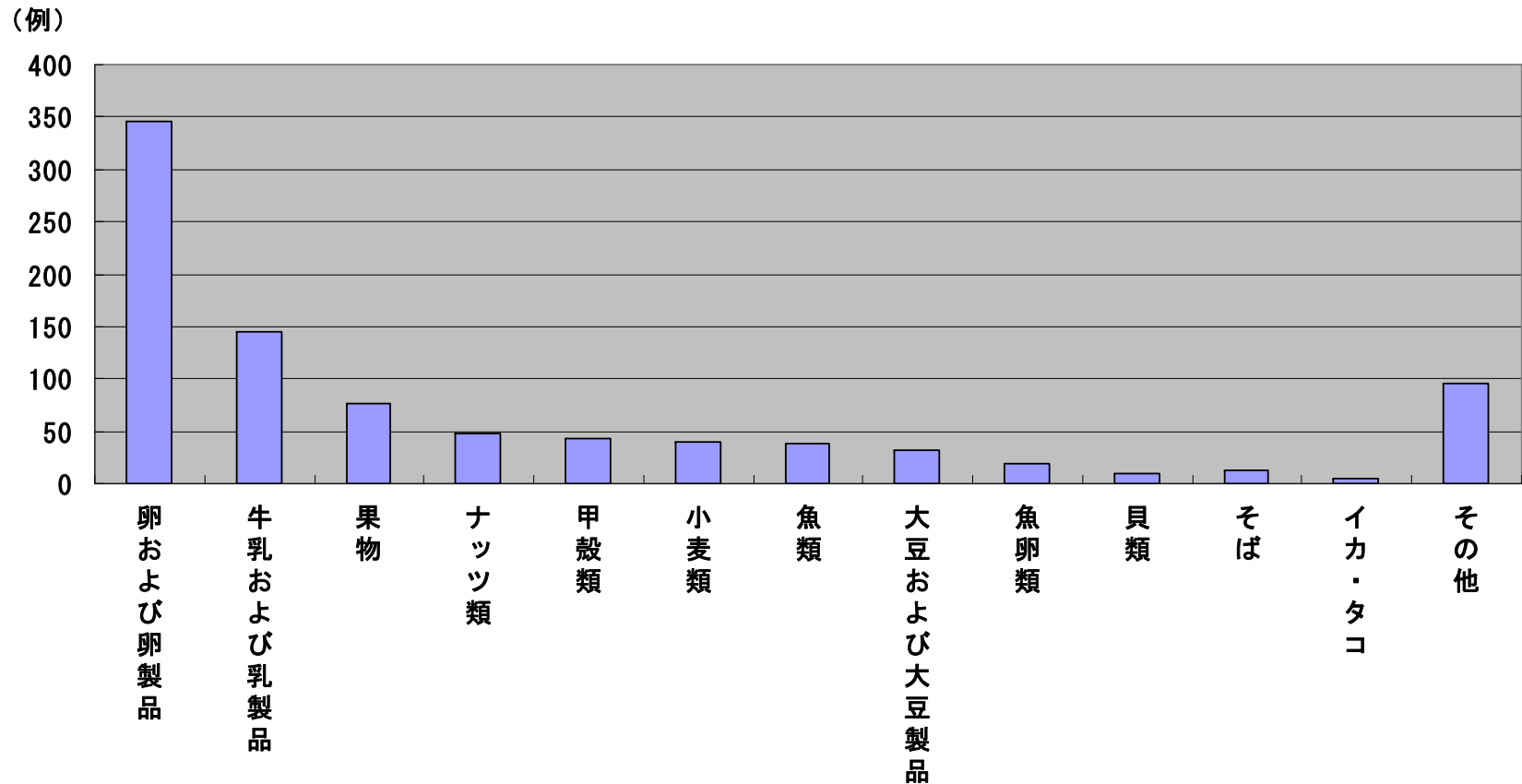
回答件数	84	件
回答率	45	%
総園児数	8072	名
食物アレルギー児 (全体の約5%)	424	名

対応方法



食物アレルギーに対する対応方法としては、献立内容配布が最も多かったが、
種々の工夫がみられた。

原因食物の種別集計表

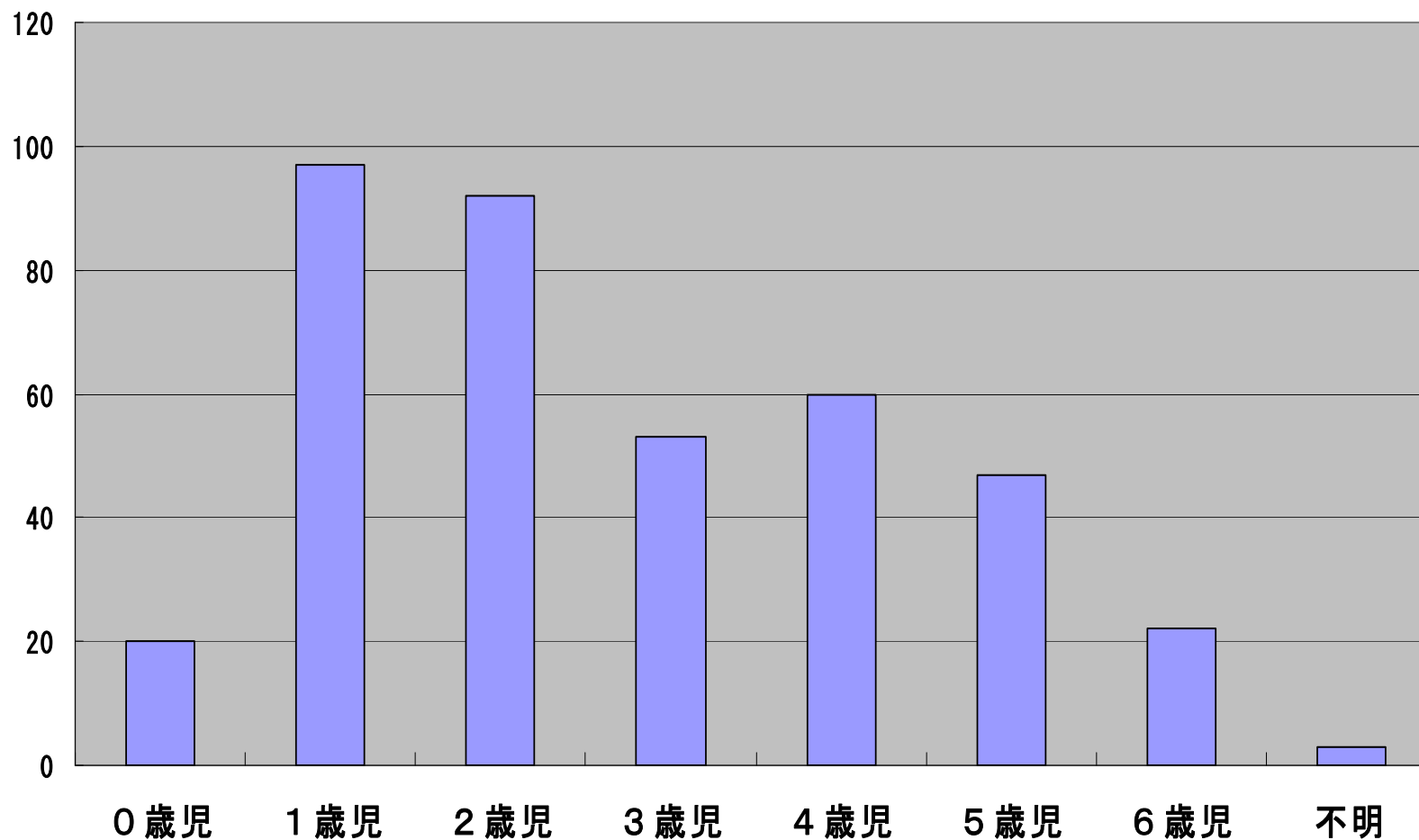


原因は多岐にわたるが、卵・牛乳が最も多かった。

大豆については、予想よりも少なかった。

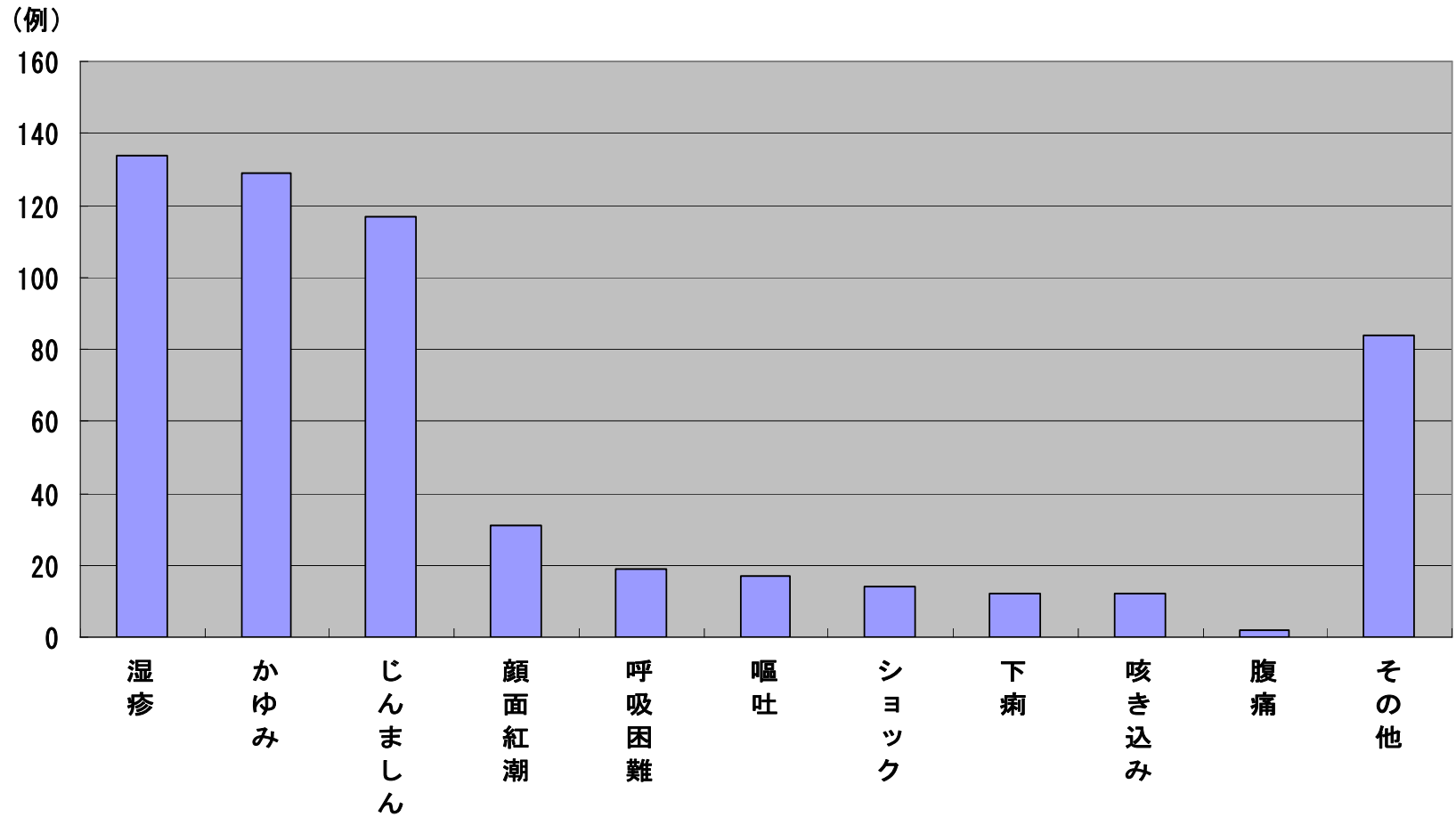
食物アレルギー児の年齢分布

(例)



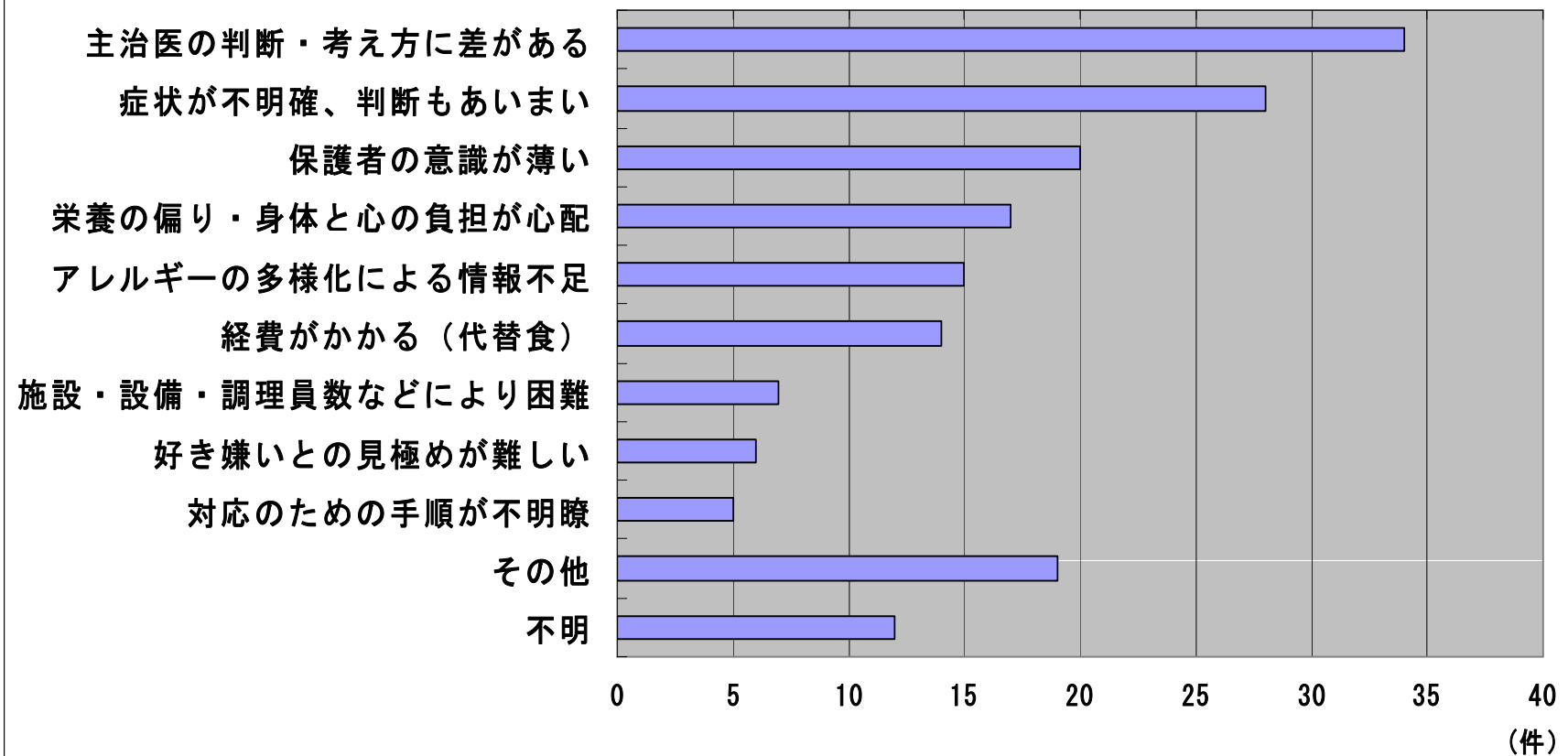
年齢では、1～2歳児が多く、それ以降は減少傾向にあった。

アレルギーの症状



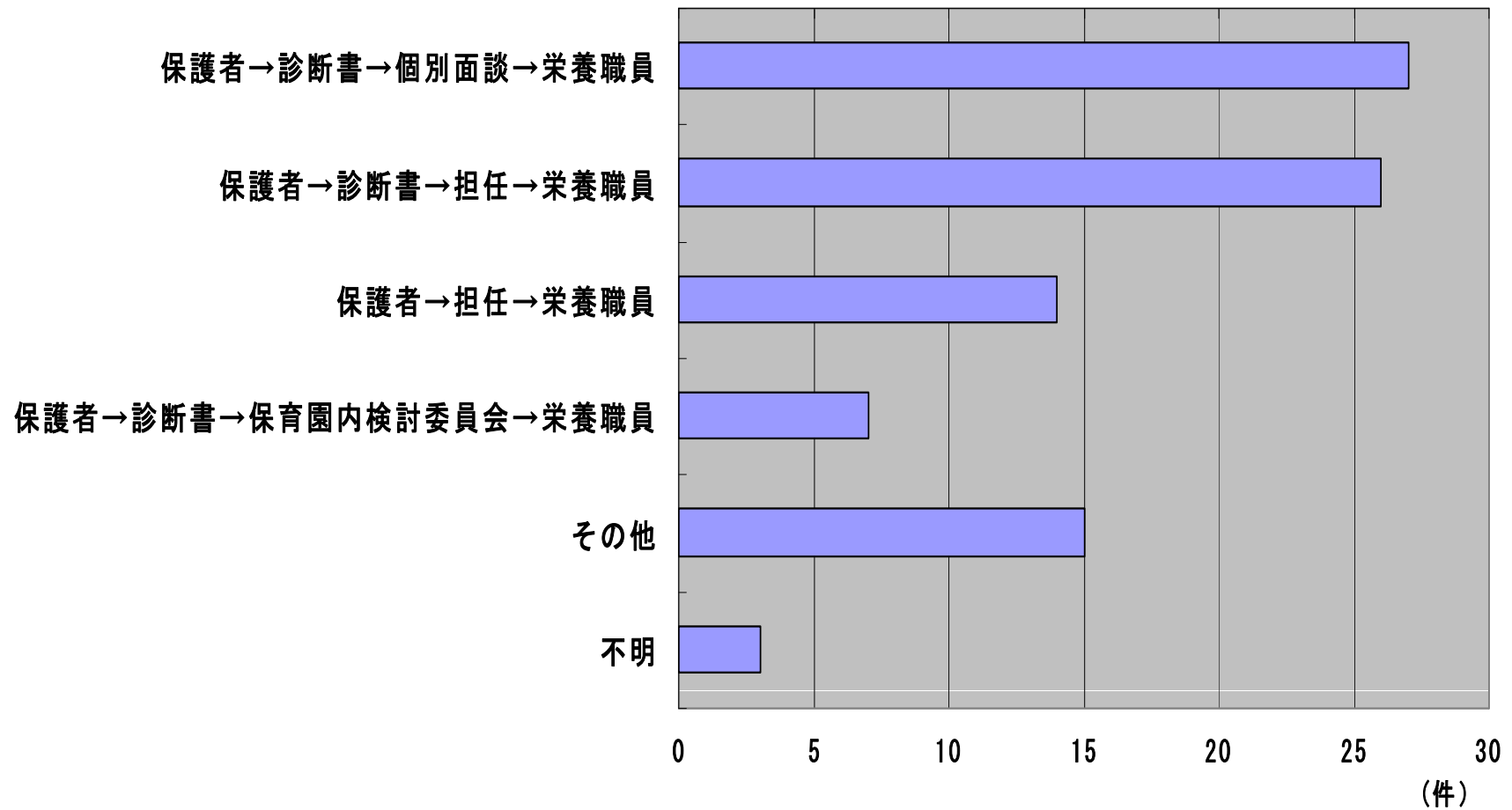
症状としては、皮膚症状が主体だが、呼吸困難・ショックという重篤な症状を呈するものもあった。

問題点・課題



複数回答であるが、主治医の判断・考え方に差がある、
症状が不明確という意見が多くみられた。

対応の流れ



対応の流れは、多様だったが診断書が介在する場合が多かった。

除去食申請に対する主治医意見書

平成 年 月 日

ふりがな		医療機関名及び主治医名
児童名	男・女	
生年月日	平成 年 月 日生	

上記の児は下記の食物によりアレルギー症状を発症する可能性があり、給食など園内での食事内容には配慮が必要です。

<p>1) 食物アレルギーを引き起こす可能性のある食べ物にレをつけてください。()には必要と思われる食物除去の程度を下記より選択して記入してください。原因食物が複数の場合にはそれぞれに記入してください。</p> <p>(例: <input checked="" type="checkbox"/>卵(1) <input checked="" type="checkbox"/>牛乳(2) など)</p> <p>(1) 食物及びその加工食品についても厳格に除去している。 (2) 食物は厳格に除去するが、その加工品は食べている。 (3) 余り厳格ではなく食物自体もすこしは食べている。</p> <p><input type="checkbox"/>卵() <input type="checkbox"/>牛乳() <input type="checkbox"/>小麦() <input type="checkbox"/>大豆() <input type="checkbox"/>米() <input type="checkbox"/>肉類() () <input type="checkbox"/>魚類() () <input type="checkbox"/>その他() ()</p>
<p>2) あきらかに食物アレルギーと思われる症状で通院や入院治療をしたことがあれば、原因となった食物や症状をお知らせください。</p>
<p>3) その他、この児童の食物アレルギーを管理する上で必要な注意やご意見等がございましたら、お書きください。(例えば、調理方法、発症時の対応などについて)</p>

※食物アレルギーの発症には原因となる食品の種類や摂取量、加工度、患児の体調などさまざまな要素が関わります。今回の意見書はこれまでの検査データや家族の申告などに基づくものであり、今回記載した以外の食品でもアレルギー症状を起こす可能性のあることに留意が必要です。

食物アレルギーの臨床症状

皮膚アレルギー

じんま疹、アトピー性皮膚炎等

消化器アレルギー

腹痛、下痢等

口唇アレルギー

口唇の浮腫等

眼部アレルギー

眼瞼部の紅斑、球結膜浮腫等

気道アレルギー

喉頭浮腫、喘息発作等

全身性アナフィラキシー

低血圧、失神等

食物アレルギー診断書(案)

児童氏名 _____ さん (男・女) 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日生

本児は、以下の食物については食事からの**完全除去**が必要と考えられます。

1. 除去が必要な食品名は以下の通りです。

・食品名 卵白 卵黄 牛乳 小麦 大豆 米
肉類 () 魚類 ()
その他 ()

・牛乳アレルギーの場合の使用できるミルク名 ()

2. 摂取した場合に出現する可能性のある症状は以下の通りです。

食品名	症状
鶏卵	: ()
牛乳	: ()
小麦	: ()
()	: ()
()	: ()
()	: ()

①ショック ②咳き込み ③呼吸困難 ④嘔吐・腹痛 ⑤顔面紅潮
⑥蕁麻疹

3. 摂取後に症状が出現した場合の対処法および緊急の対応は以下の通りです。

①投薬 : ()
②緊急時連絡先 : ()

本診断書（意見書）の内容については、（6， 12）ヵ月後に再評価が必要です。

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

病医院名
電話番号

医師名

印

新川病院で行なっている食物負荷試験

材 料

日常入手しやすい材料を用いる。

- a) 卵白：20分以上ゆでた固ゆで卵の殻をむいて、そのまま持参
卵黄：ゆでてすぐに、卵白と分離
- b) 牛乳：パック入り牛乳
- c) 小麦：乾麺を水ゆで
- d) 大豆：水煮、市販のものでも保存料なしなら代替可能

実 施 法

反応が判断しやすい、じんま疹出現の即時型のものは外来で行なう。
ショック、呼吸困難を起こすような激しい症状が危惧される場合は、
血管確保し入院の形をとって施行。アトピー性皮膚炎が主症状の場合は、
正確な判断のためには頻回な通院が必要で、今のところは施行していない。

初回負荷量

卵白：1片
牛乳：0.5～1.0ml
小麦：ゆで乾麺1/2本～1本
大豆：ゆで大豆1粒

試験の実際

空腹時、外来で負荷。30分毎に無症状であれば、倍量投与
症状出現か昼食時で終了。

試験後の注意

とりあえず、無症状で終わった最大量を親に説明。
場合により、遅発型や遅延型の反応もあるので注意させる。
その後、段階を経て自宅で完全解除を行なう。

HRTパネルの構成

- ヤケヒョウヒダニ
- 日本スギ
- カモガヤ
- ブタクサ
- ネコ上皮

吸入抗原パネル

- 卵白
- 牛乳
- 小麦
- 米
- 大豆

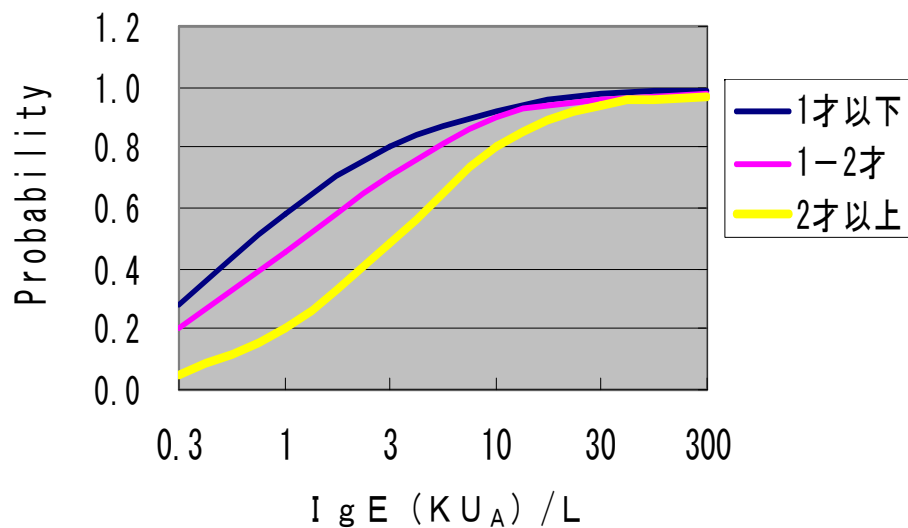
食物抗原パネル

H20年、新川病院外来での食物負荷試験例

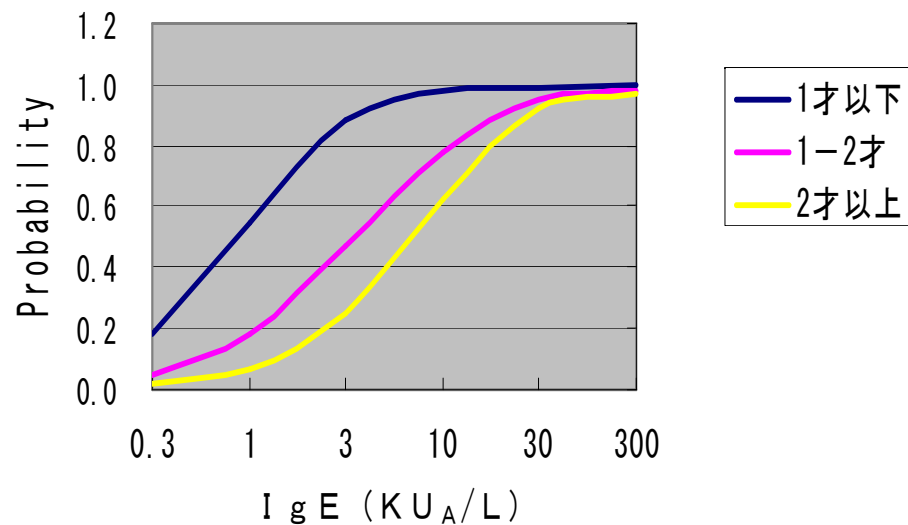
年齢	性別	原因食物	I g Eクラス	ヒスタミン 遊離試験 スコア	除去食解除
3	♂	卵	卵白3 黄2	0	○
2	♂	卵	0	0	○
4	♀	卵	1	0	○
4	♂	卵	1	0	○
3	♂	卵	2	L	○
2	♀	卵	2	0	○
3	♂	牛乳	0	0	○
3	♂	卵	2	0	○
5	♀	小麦	2	0	×
3	♂	卵	2	L	×

食物負荷で、陽性反応を起こす可能性と年齢の関係

卵 白



牛 乳



結 語

- 1) 医療情報を活用するために、保育園での食物アレルギーの現状を把握するアンケート調査を行なった。
- 2) 食物アレルギーの頻度は約5%で、他の報告とほぼ一致した。
- 3) 年齢分布によるせいか、原因食物としては卵、牛乳が主体であった。
- 4) 少数ながら、呼吸困難、ショックという重篤な症状を呈するものもみられた。
- 5) 診断書を介しての対応が多い一方医師の診断、指示がばらつくという悩みも多かった。
- 6) 札幌市の補助金制度導入に伴い、ある程度統一した診断書を札幌市小児科医会と作成した。
- 7) 食物アレルギーの重症例について、一般的な食物アレルギーと区別するため、完全除去診断書を提案する。
- 8) 新川病院で行なっている、除去食解除のための、負荷試験の問題点につき、言及した。